

土木のリセット！してみませんか？



佐々木 葉
論説幹事
早稲田大学創造理工学部
社会環境工学科教授

昨春、私の所属する社会環境工学科に入学した 1 年生に、何がたくてこの学科に入りましたか、という素朴なことを聞いてみた。4 月 2 日、入学式翌日の学科ガイダンスの場においてである。95 名中 68 名が回答した結果を概括すれば、「都市計画やまちづくりがしたい」が 50%、「災害への対応や環境改善をしたい」が 24%、「橋や構造物を作りたい」が 13%、その他 13%であった。

今年の 2 月、卒業論文や修士論文の追い込みの最中、同じく学科の各研究室に所属する学部 4 年や修士 2 年生にも、どのような仕事をしたいか、と問うてみた。約 50 名の回答はさすがに 1 年生のそれより多様であるが、あえてそれをくれば、一つは「ものづくり」、いま一つは「まちづくり」といえよう。そしてほとんどの回答に、「世の中のためになる仕事をしたい」という意図が読み取れる。

頼もしい限りである。若者は、ものづくりやまちづくりを通して社会に貢献する仕事をしたいと考えているのだ。

一方、「ああ、国民のための仕事がしたい」という言葉が、期せずして複数の若手国家公務員の口から漏れるのを聞いた。彼らの忙しさは尋常ではない。しかし、それが国民の役に立っているという実感を伴っていない場合がある。その程度や割合は様々であろう。また国家公務員に限らず地方公務員も、あるいはコンサルタント等の技術者といった、文字通り休みなく仕事をしている人たちの間にも、同様の感触はあると感じる。

なぜなのだろう。

この土木学会の論説には、大先輩方による多くの寄稿があり、そこではこの「なぜ」という疑問が生じる背景やその打開策について、豊富なご経験と高い志に基づいた提言がされている。いまさら私ごときの世間知らずが加えられることはない。そこであえて世間知らずという立場から、若者たちが発する素朴な疑問、直感的な希望に直接向き合い、そこから問題の根源をできるだけさかのぼることの重要性を考えることとした。

冒頭に挙げた学生への問いかけの直接的なきっかけは、2007 年 12 月に土木学会景観・デザイン委員会主催で行った、ワークショップ「土木のリセットーいま、土木デザイナーに何ができるのか」を企画運営したことにある。全国から集まった土木系の学生と若手技術者、教員が入り乱れて議論し、最後に濱田政則元土木学会会長を初めとする重鎮にコメント

をいただく、という企画であった。その結果を基にさらに学生企画によるメッセージ映像として編集した DVD*も作成した。この過程で、彼らが発する疑問や意見は、実際の設計や計画の場で私自身が感じる問題意識と非常に近いものであることを実感した。以下、一例を具体的に記してみたい。

まず、土木の魅力は地図に残る仕事ができること、という認識はある。しかしそれを誰がやっているのかわからない、という問題について。まず地図に残るとは、スケールが大きく、時間的にも永く存在するということだ。さらに公共的な存在価値が認められているということもある。もちろん今の学生は、これを巨大プロジェクトとして考えてはいない。Google Earth に慣れ親しんだ眼には、物理的な大きさはさしたる問題ではない。小さくても、具体的な場所にしっかりと刻み込まれた構造物や空間のデザイン、街の骨格として立ち現れてくる計画を、「自分がやった」という実感を持って眺められることが重要なのである。携わった人の個人名が建築家のように世に知られるかどうかも決定的な問題ではない。自分のやったことが結果に結びついた、という実感をまず自分自身ももてること、そして仲間内やご近所の範囲であっても、その実感を共有できること。これが重要である。

この素朴で素直な思いに答えるには、結果に結びつかない仕事（作業というべきか）のみに忙殺されない環境を作ることが必要と思う。橋の設計を例にとれば、端からあり得ない比較案的作成、どうせ誰かが後でまた変えるのだからというあきらめの元でルーチンなパターンの当て嵌め作業、そもそもやる気をそぐ予備設計という仕事の名称、などを何とかしてほしい。そして地図、すなわち大地上のその場所に足を運び、橋ができる前、工事の最中、そして完成後と、自分の目で自分の携わった仕事を見る時間を増やしてほしい。

あるいは市民と一緒に仕事がしたいという希望は、やたらと和やかなワークショップやインターネットに晒すだけの“パブコメ”という形式消化ではなく、性善説と楽観主義に根ざしたオープンマインドな直接議論の場に臨み、エゴと政治的圧力の介入を参加者の自浄作用によって淘汰しつつ、必ず到達できるある答えを皆で必死に探す苦勞によってこそ、叶えられると思う。

例えばそういった素朴な願いや要望に、具体的にどうやって答えていくのか。そのためには対処療法ではなく、そもそも何のための仕事なのかを問い直すことが不可欠となる。たとえ思考実験レベルであっても、その試みは現実世界に何らかの変化をもたらすと、世間しらずの私は考えている。

パソコンがなぜかフリーズしたとき、ともかく再起動してみるように、土木のリセット、してみませんか？

*本 DVD をご希望の方にお送りします。佐々木 yoh@waseda.jp までご連絡ください。